

# ACTION!

学ぶことは、動くこと

福井工業大学 環境情報学部デザイン学科 三寺 潤 准教授

## 社会とつながるデザイン 公共交通を軸にまちづくりを考える

**鉄道をまちづくりに活用**  
「福井県は公共交通のインフラがしっかり残っています。これをうまく活かして、既存の公共交通を軸にまちづくりを考えていきたい。」

三寺潤准教授の専門は、都市計画や地域交通計画。地元福井で、地方鉄道の沿線や駅周辺を研究対象にしてきた。福井県と連携して、福井都市圏における駅周辺の土地利用を分析するチームに参加。79の駅（当時）の半径500m圏内の土地利用を調査したこともある。

ローカル鉄道「えちぜん鉄道」との関わりも長い。同鉄道は、2002年に前身の鉄道会社から第三セクターの運営に切り替わった。三寺准教授は、再生後の鉄道を中心とした駅周辺地区のまちづくりの可能性を探るため沿線のフィールドワーク調査を行い、会社にフィールドバックしている。3年前には、インターシッピング研究員として半年間、社内での仕事も体験した。

「実は、自宅もえちぜん鉄道の沿線を選んだんです」  
生活も研究の一部になっている。

**デザインは地域社会とつながっている**

「都市計画の分野では、『産官学連携』の必要性が昔から言われてきました」

企業や自治体、地域との連携が欠かせない分野だという。「都市計画は色々な分野の人がかかわり長い時間をかけてやっと形になります。」

都市計画に限らず、デザインは社会とつながりが大切。学生のうちからそれを意識してもらおうため、デザイン学科には、F's Design Studio という、自治体や企業から依頼を受けてデザインワークを行うプロジェクトがある。これまでに、ラッピングバスや案内板のデザイン、村おこしプロジェクトへの参加、商品開発などを行ってきた。



**社会を通じてデザインを学ぶ**  
F's Design Studioのプロシエクトのひとつに、デザイン学科創設の時から続く「七タアート電車プロジェクト」がある。えちぜん鉄道と連携し、7月上旬の約10日間、七夕のイメージで車両全体を装飾して走らせる。

「地域共生型サービス企業を目指す」がえちぜん鉄道の企業理念の中にあります。私たちも学生の学びの場として活用させていただいています」  
取り組むのは入学して間もない1年生有志。アイデア出し、会社側へのプレゼンと打ち合わせ、制作のスケジュール管理、実際の制作と「通り」を体験する。三寺准教授は担当教員だが、あまり口を出さないようにしている。

「基本的には、経験者の上級生がアドバイザーするシステム。教える側になるとさらに成長します。アドバイザーすることの難しさ、人に伝えることの難しさを学ぶことができます。」

学生たちには、この体験の重要性を伝えたいという。

「これはチームで行うプロジェクトであり社会とかかわるプロジェクトです。学生でそれを体験できる機会はなかなかありません。会社の人からのアドバイザーで、学生たちは多くのことを学びます。デザインは社会とつながっていることを感じてほしい。貴重な体験をしているんだということ、わかってもらいたいと思います」

学生たちの成長の証が、今年も線路を走った。



B班の設置作業風景  
「願いの流れる川、えち鉄」がテーマ。

 **福井工業大学**  
Fukui University of Technology

〒910-8505 福井県福井市学園3丁目6番1号 [フリーコール]0120-291-780 [ホームページ]http://www.fukui-ut.ac.jp/

広告